津市人権教育広報
あけぼの

第21号
平成28年7月16日発行
教委人権教育課
229-3253　FAX 229-3332

子どもたちの未来を保障するために～今、私たちにできること

子どもたちには、みんな、いろいろな夢があり、希望があり、可能性があります。夢を実現していくために、それぞれに努力し、その中で人として成長し、自分の未来を形にしていきます。

でも、そんな子どもたちの努力や頑張りとは別に、生まれ育った家庭の経済的な事情などによって、子どもたちの未来が左右されてしまう場合も少なくありません。平成25年国民生活基礎調査(厚生労働省)によれば、日本の「子どもの貧困率」は16.3%で、６人に１人は貧困状態にあるといわれます。

家庭の経済的な事情によって、子どもが自分の未来を諦めたり、目標を見失ったり、可能性が摘み取られかねない現実を前に、「他人の家庭のことだから…」では、終わらせたくありません。

今、市内のいろいろな場所で、子どもたちを地域ぐるみで支援していこうとさまざまな活動が起こっています。下を向いて「どうせ…」とつぶやいていた子どもたちが、地域の中でいろいろな人に囲まれながら笑顔に変わっていく。自分のことを大切に思ってくれて、声を掛けてくれる人の存在や地域の中の温かな人のつながりを意識したときに、子どもたちの笑顔はどんどん輝きを増していきます。

今回の特集「子どもの未来　応援します！」は、今、この私たちの市で、子どもたちの未来を守りたいという思いを胸に活動している人たちの姿から、私たち一人一人が、それぞれの場所でできることを一緒に考えてみたいと思います。

人権コラム　地域の中の「新しい家族」

近年、地域におけるコミュニティーの希薄化が社会問題となっています。

この希薄化の要因の一つに小家族化があります。平成26年度の厚生労働省の調査では、核家族世帯と単独世帯を合わせると86.3%を占め、今後も増える傾向にあります。この小家族化傾向に加え、パソコンや携帯電話の長時間利用により、家族間でお互いの関心が一層失われ、自己中心的な考えや行動が助長され、さらには、人権問題についても他人事という考え方を助長しているという指摘もあります。

私たちは日々の暮らしの中で、子どものいじめ、女性差別、高齢者の虐待、貧困の問題など、さまざまな人権問題と関わりあっています。このような社会の中で、私たち一人一人が大切にされていることが実感でき、住みやすいと思える社会を作るために、日頃から、さまざまな人権問題について、決して他人事ではなく、自分のこととして関心を持ち、学ぶ姿勢が大切だと思います。

私たち人間は大脳生理学上、人とのつながりや関わりの中で、力が出てくる動物だそうです。自分の中にある力が発揮されて、元気に幸せに生きている状態を「エンパワーメント」といいますが、この「エンパワーメント」を維持していくために、私たちは何をしていけばよいのでしょうか。

その手だての一つとして、地域の中で、人とのつながりや関わりが持てるような場所に自分の身を置いてみてはいかがでしょうか。例えば、一緒に誘い合って地域イベントやボランティアに参加する、地域の子どもと関わるなどです。

そこには、「新しい家族」といえるようなコミュニティーが生まれるのではないでしょうか。

お互いを思いやったり、支えあったりできる、そんな人と人とのつながりがある地域社会を作っていきませんか。